

2021 年度第 5 回価格審査会の開催について

2021 年度第 5 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2021 年 8 月 12 日(水) ～16 日 (金)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	鈴木 由香	株式会社日本設計 コスト設計部長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	橋本 雅宏	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：今井 豊
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2021 年度第 4 価格審査会議事録(案) 確認

2021 年度第 5 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向	
・ 価格が上伸した資材 (工事費)	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼板(全国)、異形棒鋼(北海道、東北、北陸、関東、中部の各都市)、ねじ節鉄筋(北海道、東北、北陸、関東、中部の各都市)、平鋼(札幌、名古屋を除く全都市)、H形鋼(全都市)、等辺山形鋼(全都市)、リップ溝形鋼(札幌、名古屋を除く全都市)、鋼板(全都市)、市中切板(全都市)、コラム(全都市)、ステンレス鋼(全都市)、溶融亜鉛めっき鋼板(全地区)、線材製品(北海道を除く全地区)、スパイラルフープ(北陸、中部、近畿、中国、四国、九州の各都市)、ワイヤロープ(全都市)、スタッド(全地区)、溶接金網(中部、近畿、中国、四国、九州の各都市)、レディーミクス トコンクリート (稚内、倶知安、目黒・世田谷、川崎B、長岡、見附、金沢、京都A、宇治川、木津川)、コンクリート用骨材(松山A・B、伊予A・B、東温、佐伯)、仮設・土木用木材(全都市)、一般建築用木材(全都市)、北海道地区木材、沖縄地区木材、コンクリート型枠用合板(全都市)、アスファルト混合物(上田、飯田、伊那、大町、佐久、木曾)、ストレートアスファルト(那覇)、道路標識柱(全地区)、普通合板(全都市)、ネットフェンス(全地区)、がいし(全地区)、配管用炭素鋼鋼管(全都市)、水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (全都市)、軽油パト給(北海道、関東、徳島、九州の各都市)、	

<p>鉄スクラップ(近畿の各都市)、銅スクラップ(全都市)など</p> <p>・ 価格が下落した資材 (工事費)</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>伸銅品(全都市)、鉄スクラップ(東北、近畿を除く全都市)など</p> <p>2. 比較資料</p> <p>・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。</p>		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問1	<p>ネットフェンス関連資材の複数帯が上伸している。メーカーの値上げを理由とした全国的な上伸のようであり、異なるメーカーのブランド品も一斉に上伸している。このようにネットフェンス関連資材帯の多くがこの時期一斉に上伸した背景は何か。この時期に上伸することになった理由と、上伸が歩調を合わせて全国(北海道・沖縄除く)的に波及することになった本資材の供給メーカー側の特徴(例えば、協会で結束しているとか)が知りたい。</p>	<p>フェンス類は、原材料である鋼材の価格上昇を背景とするメーカーの値上げが浸透し、今月上伸した。フェンス類は、各メーカーが個別に販売しているが、各メーカーとも原材料コストが上昇している状況のため、異なるメーカーのブランド品も含め、全国的に上伸した。</p>
質問2	<p>鉄スクラップは上伸と下落が混在する状況だが、下落した都市数の方が明らかに多く、鉄スクラップ(ヘビーH2、東京)もピークを越えて下がり始めた。これらの状況から、鉄スクラップの高値上伸はそろそろ頭打ちと判断できるか。それとも海外市場動向や供給情勢などの理由から、頭打ちとの認識は時期尚早か。加えて、上伸となっている都市が大阪・神戸・京都等を含む関西圏であるがこの点についての補足説明についても教えて欲しい。</p>	<p>鉄スクラップの先行きの動向を見通すことは難しいが、新型コロナウイルスの感染拡大で輸出相場の軟化が続いている。一方で、国内電炉メーカーの生産量は回復傾向が続いており、需給に緩みは見られない。こうしたことから、目先は横ばいの公算が大きい。近畿地区は、電炉メーカーの購入価格に変化が無いなか、発生薄による需給タイト化で問屋筋が買い取り価格を引き上げたため、上伸した。</p>
質問3	<p>レディーミクストコンクリート (東京地区) は、原材料や生コン輸送費の上昇に加え、出荷の回復などの声を踏まえれば、値上げ交渉が進展する環境になりつつあるとはいえないか。</p>	<p>出荷は徐々に回復傾向にあるが、既に値上げ額の一部を受け入れている需要家は抵抗を続けている。また、需要家がパラリンピック開催終了まで工事を控える動きを見せていることなどからも、交渉に時間を要している状況である。</p>

質問 4	アスファルト混合物は、長野県各地区で価格が上昇しているが、長野県だけが上昇している原因は何か。	長野県内の一部地区では、原材料であるストアスの価格上昇を背景とするメーカーの値上げが浸透し、今月上伸した。全国的にストアス価格は上昇傾向にあり、多くの地区ではメーカーが混合物価格への転嫁に取り組んでいるが、値上げの浸透状況は、需要家との交渉の進展状況により地区ごとに異なっている。
質問 5	木材の大幅な上昇の影響を受けて、木材を使った製品も上昇していると思われる。内装材や木製建具、メーカー品等への影響は出ていないのか。	木製建具やフローリング等の内装材については、現状横ばいで推移しているが、昨今の大幅な木材価格の上昇を受けて上伸する可能性がある。今後も注視していきたい。なお、木工事については7月号で上伸している。
質問 6	配管用炭素鋼鋼管（ガス管）の東京地区は比較対象の1紙が先月上がっており傾向は同じと思われるが、大阪地区は他2紙がずっと横ばいとなっている。大阪の建設物価の上昇の傾向とは違っているが問題はないのか。	東京と同様に大阪の2紙においても、紙面に反映される時期の違いも予想される。逆の傾向ではないため問題はないとしているが、引き続き動向を注視したい。
質問 7	H形鋼のコメントでは、鉄スクラップの高値を受けてメーカーが値上げしたとあるが、今月の鉄スクラップは、近畿地区を除き、下落している。これは、鉄スクラップは値動きが激しく、タイムラグが生じているという理解か。また、鉄スクラップの高値圏が続いているうちは、値上げ傾向が続く見込みか。	市中のH形鋼は高炉品と電炉品が混在しており、どちらも原料高を背景にメーカーが値上げを進めている。鉄スクラップは、輸出相場の軟化を受け小幅下落したが、電炉メーカーはこれまでの鉄スクラップ価格上昇分を転嫁できていないとして値上げの姿勢を変えていない。高炉メーカーは、鉄鉱石価格が高値で推移していることから価格優先の販売姿勢を維持している。原料が高値で推移している状況から、目先は強含みの公算が大きい。
質問 8	銅建値は2か月連続して下落しているが、銅を主材料とする他の製品には値動きは見られない。例えば600Vビニル絶縁電線は流通各社が在庫一掃したことで値下げ要求に応じず、横ばいとなっている。伸銅品は一次製品のなもので銅相場の影響を受けやすいということか。	銅建値は先月下落した以降は小幅上下動となっているが、伸銅品はこれまでの銅建値の下落を背景とする需要家の購入姿勢の強まりから、今月下落した。伸銅品と電線類はどちらも銅を主原材料とする資材だが、それぞれ別の市場が形成されているため、価格変動も異なる場合がある。

質問 9	鉄スクラップは東北・近畿地区を除く全国の掲載都市で下落とのコメントがある。近畿地区では下落していない理由として「発生簿による需給タイト化を背景に問屋筋が買い取り価格を引き上げ、続伸」をあげているが、東北地区で下落していない理由は何か。	東北地区は、近畿地区と同様に電炉メーカーの購入価格に変化は無く、需給もややタイト化していたが、問屋筋は様子見姿勢を守り、横ばいとなった。
質問 10	伸銅品は原料(銅、黄銅)価格下落を受け、下落とされている。その理由として先月の質疑応答において、銅建値が中国の国家備蓄放出の発表などを背景に下落との回答があったが、他の金属が概ね上伸基調なのに対して、今後も銅は下落基調と考えられるのか。	伸銅品は、銅建値下落を背景とする需要家の購入姿勢の強まりから、今月下旬下落した。銅建値は、先月下旬下落した以降は小幅に上下動しているが、今後の動向についての見通しは困難である。
質問 11	レディーミクストコンクリートにおいて、概要説明資料では「建設物価」変動帯数のコメントにおいて上伸・下落が混在、主要資材価格推移表(2)ではすべての地区で価格は横ばい、入稿情報表では変更内容が下落で最小変動率－1.7%、最大変動率－3.4%とマイナスとなっている。これらの資料の関係性(見方)について教えていただきたい。	主要資材価格推移表に記載している 10 都市は横ばいだったが、建設物価 (Web 含む) 掲載の全 519 都市の変動状況は、上伸が 19 都市、下落が 6 都市だった。上伸した価格の変動率は、最小 0.3%、最大 50%だった。下落した価格の変動率は、最小－1.7%、最大－3.4%だった。
審議結果	「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向に問題はなかった。	

以上